

神奈川山梨教会連合会だより

か り ん

今回のインタビューは、武蔵小杉教会の須賀院美子先生です。先生は、昭和二十五年に愛媛県の久米教会にてお生まれになられました。広島県尾道の短大を卒業後、金光学院へ。教師拝命後は御本部内掌部に二年ほど、御神米の御用奉仕をなされてきました。この後、現武蔵小杉教会長と昭和五十年にご結婚。教会長先生が布教されて三年経った頃でした。

Q 布教したての教会で、大変だったのではないですか。

美子先生(以下美子) 布教して三年経っていたので、教会長がされてきた苦労を思えば、比べ物にならないものだったと思います。結婚当時はまだお参りされる方が少なく、地域の方がお参りされるきっかけになればと、教会長と色々なイベントを考えて行いました。もちつき大会を行った時などは、地域の方が段々に参加して下さり、地域に馴染むきっかけにならせて頂きました。

Q 教会の掲示を拝見させて頂きましたが、色々な会を行われていますね。

美子 ご信者さんの中で、例えば「金光大神の本を読みたい」「同世代が集まってお話する会を作りたい」など声があがると、取りあえず私達教会の者と二人だけでもいいから、集まってやってみます。その内に、賛同する方が出てきたら会として続きますし、うまくいかなかったら、次回はこうしようか、と話し合って次につなげます。

川でスベって山でコロんで……とってきました

Interview

第23回 須賀院 美子先生 (武蔵小杉教会)



四、五年前には、若婦人会が発足しました。30代、40代の女性の信者さんに声かけさせていただき、若い方々同士の繋がりを深めることから始めました。

Q 婦人会とは別に作られたのですか。

美子 はい。婦人会の方から「どうして別にするの?」「連帯感がなくなるのでは?」との意見もありましたが、同世代同士で共通の悩みなど忌憚なく話したい、

という要望もありましたので、婦人会と合同で行う日も作って、という形で発足させて頂きました。

その際、私は「皆が来てよかったと思える会に」と神様をお願いしていました。わずか一時間半程の集まりですが、毎回皆さん時間の都合をつけて集まって下さいます。今は、少しずつ「金光大神」の輪読をしたり、おしゃべりをしたりと、続けさせて頂いています。

Q 若い方が教会に足を運ばれると言うのは、とてもいいことですね。

美子 あの世代の女性のパワーは凄くて、今は教会の御用なども婦人会の方と共に元気に取り組み、勸学祭の企画・準備などを全面的に請け負ってくれています。また、信者さんの信心発表などでも皆さん、はつらつとお話して下さい、教会も活気付くように感じます。信者さんが「また次もお参りさせて頂きたい」と思っ、信心が続くよう、また、信者さんのご家族で信心のない方も、自分もお参りしてみようかな、と思ってももらえるように、教会は取り組んでいきたいと思っております。

ありがとうございます。

(今村 則子)

育成部青少年室では：

育成部次長 今村 誠

青少年室での一番の御用は、年に一回行われる「みんなのつどい」のイベントの内容を決めて、実行することです。

イベントの目的は、参加した子供達が楽しめ、思い出として残るような行事になることと一番に考えます。とは言え、参加者の半分以上が付添いのご父兄や祖父母の方々なので、どうせなら世代を超えて楽しめるものをと、色々試行錯誤しています。

今までで一番人気があったのは、過去数回行われた「地引き綱」だと思います。魚が採れた時は、大人も子供も大喜びです。

昨年は、丸子教会の横山先生が数人の二十代のご信者さんに声を掛けて、スタッフとして企画の段階から一緒に考えて頂きました。上は六十代から幅広い年齢のスタッフと会議をすることが出来ました。

その中で出てきた案が、昨年に行われた「うどん作り」でした。

子供達は、初めは手につく粉を嫌がる子や、捏ねるといふよりパンチをする：と言ったほうがよい子もいましたが、次第々々に夢中になり、粉にまみれながら、捏ねたり踏んだりしていました。

大人は、捏ねた粉の塊を延ばすときに、なかなか延ばせず悪戦苦闘しているところ

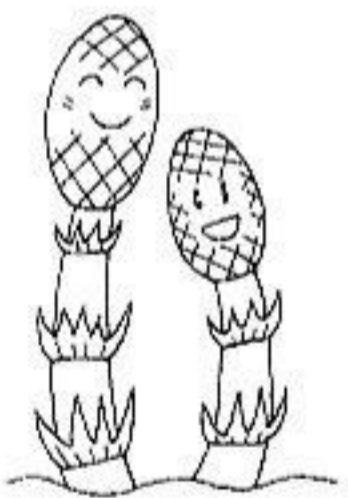
へ経験のある方々が熱血指導に入る、などしてフォローしてくださったり、うどんにのせて食べるかき揚げ・めんつゆを作ってくださったりと、世代を問わずとても楽しんで頂けたと思いますし、うどん作りを通して、自然に世代を超えた交流が生まれた事をありがたく思います。

楽しむことばかりで、少しは子供の信心の継承を考え、勉強会なども催した方が良くいと思われる方もおられるかも知れません。しかし、自分の考えとしては、子供の時に金光教での楽しい思い出を作ってもらい、その中で同世代の子・さまざまな世代の人たちと触れ合い、金光教の仲間が出来ることが大切だと思っています。

色々な方からの支援のおかげで、近年は参加者も増え、ありがたいことだと思っております。これから、色々な企画を練って開催したいと思っておりますので、是非お子様だけじゃなく、皆様にも参加して頂ければと思います。

また、「みんなのつどい」で扱ってほしい内容がありましたら、お知らせください。ありがとうございます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。



かりんの輪

「ありがとう」

神奈川教会 桜井 亘子

私が、障がい者のボランティアを始めてもうすぐ二十年になります。

私と盲人との関わりは、二十八年前電車の中で盲導犬を連れた全盲の作家Fさんとの出会いでした。当時、犬が好きでFさんの本も読んでいた娘はFさんと仲良くなり、Fさんが盲導犬の集会や講演会に娘を招いて下さったり、関西盲導犬センターを訪ねたりしている中で、私も誘導犬ボランティアをすることになり、神奈川県ライトセンターで誘導を始めました。

見える私が、見えない人の手助けをしようと思っただけでしたが、している中で「やろう」から「させて頂く」へ、また色々な中で「学ばせて頂く」「喜び・楽しむ」というような心の変化があり、今では「ありがとう・感謝」の気持ちでさせて頂いています。沢山の友もでき、北海道から山口県まで沢山の旅をしました。オーストラリアやシンガポールなど外国にも行きました。また盲導犬との歩行中、駅で晴眼者とぶつかる事故で訴えられた友人の、三年がかりの裁判をした経験もあります。

私のボランティアのスタートは、娘が通っていたカソリック系の学校でした。ここ



平成二十二年二月十四日・十五日の両日、昨年の立教150年を記念して『金光教ヨーロッパ大会』がロンドンで開催されました。

二日目に行われた「吉備楽コンサート」には、神奈川県鶴見教会の桜井君江先生が参加されました。大会の様子を、以下に金光教国際センターからの報告記事からご紹介します。

十四日は、英語と日本語での信心研修会・祭典・信奉者体験発表などが行われました。信心研修会では、日本人信奉者とイギリス在住信奉者の良い交流の場となりました。それは、十五日に行った「吉備楽コンサート in ロンドン」のために、楽人・舞人など総勢十八名が、このお道を伝えたいとの熱い想いを胸に、日本から参加していたからです。そして祭典も、楽の調べと共に麗しくお仕えすることが出来ました。

十五日の吉備楽コンサートは、ロンドン大学日本宗教研究センターの共催で開催されました。コンサートでは、中正楽と舞を披露し拍手の嵐を浴びました。また、ロンドン大学のデイヴィット・ヒューズ先生、新宗教の音楽が専門のチャールズ・ロ

立教150年記念 金光教ヨーロッパ大会が開催される



金光教国際センター <http://www.konkokyo.or.jp/eng/kic/>

ウ先生が、吉備楽や中正楽の解説だけではなく、金光教の成り立ちや教義も説明して下さいました。私たちにとってはロンドンの学識者が、金光教のお道を語って下さり、とても意義深いものになりました。更に詳しい報告は、近日中に国際センターのホームページにアップ致します！
(国際センターのホームページより抜粋)

での経験がなければ、当時としては入りにくかったボランティアをする勇氣はなかったでしょう。心身の健康の有り難さ、五体満足、普通に何でもできる事に感謝、耐える心、頑張る気持ち、少々のことは気にしない等、沢山のことを障がい者から学び、現在も教えられている私です。

七十四歳になった今も、まだ人のお手伝いができ、誘導させて頂けること、人の手を借りずに自分でどこにでも行け、何でもできることにお礼を申す日々です。誘導しなければ、ここまで感謝できなかったと思います。盲聾の重複障がい者の誘導もしましたが、その時は家に帰る途中、今の自分が有り難くて、涙を流しながら駅の階段を上ったのを覚えています。

今は月に二回体操クラブで楽しみ、障がい者と普通に買い物・食べ歩き・お喋り等をし、誘導をしているという感覚もなく歩いています。誘導をしないでこの歳を迎えている私を考えるとぞっとするくらい、今は障がい者に関わりを持ってたことに感謝しています。一円の報酬も受けないので、経済的に心配もなく、ボランティアをさせてくれている主人にも感謝です。私は結婚後十年目にやっと娘を授かりました。そのおかげでこのような機会を与えて頂け、娘が生まれてきてくれたことにも感謝です。その娘もライトセンターで、ブラインドスキのお手伝いをさせて頂いています。沢山のことに、沢山の人の人にお礼を申している日々です。感謝!!

平成22年 神奈川山梨教会連合会 天地金乃神大祭日程

教会名	日 程	時 間
津久井	4月17日(土)	13時00分〜
甲府	4月18日(日)	13時30分〜
南甲府	4月19日(月)	11時00分〜
藤沢	4月24日(土)	11時00分〜
鎌倉	4月25日(日)	13時30分〜
川崎	4月25日(日)	13時00分〜
登戸	4月25日(日)	13時00分〜
横浜西	4月25日(日)	13時30分〜
大 明	4月29日(祝)	13時30分〜
子 安	5月2日(日)	13時30分〜
横須賀	5月3日(祝)	13時30分〜
丸 子	5月3日(祝)	13時00分〜
相模原	5月3日(祝)	14時00分〜
生 麦	5月5日(祝)	13時00分〜
鶴 見	5月11日(火)	13時00分〜
大 磯	5月14日(金)	13時00分〜
野 毛	5月15日(土)	13時30分〜
平 塚	5月19日(水)	13時00分〜
神奈川	5月22日(土)	11時30分〜
小田原	5月23日(日)	14時00分〜
武蔵小杉	5月23日(日)	11時00分〜

お知らせ!!

女性のつどい

日時 7月3日(土) 13時30分〜16時
 会場 登戸教会
 講師 和田文子・和田我八十氏
 (登戸教会信徒)
 内容 体験発表

みんなのつどい

日時 7月24日(土) 10時〜15時
 会場 未定
 内容 竹トンボ作りと流しそうめん
 を予定



※両行事共に、詳しくは後日各教会宛に
 発送します。ポスター・チラシをご覧
 ください。

〈な・が・れ〉

『迂闊なこと!』

藤沢教会 永友 豊

少々お堅い話で恐縮ですが、昨年六月から
 四回行われた教学研究所の講師による「こん
 こうセミナー」を受講しました。それを契機
 に教学に関心を持ち、紀要『金光教学』を数
 冊購読いたしました。その中から特に「目か
 らウロコ的」に感動した部分を紹介させて頂
 きます。

『金光大神事跡集』『金光大神言行録』で明
 らかにされた直信近藤藤守師のご伝承から、
 師が明治十四年に教祖の御許に初参拝した時
 に目に映ったお広前の様子のことです。

「見れば、くずれかかる荒壁に接して、神棚
 らしいものが設けられてある。床の上に小さ
 な蜜柑箱を据え、その上に一枚の平板を延べ
 て八足台代りとし、ごく粗末な小さなお社が
 その上に安置してある」壁も雨風のために落
 ちていて、白木綿を当ててある所もあって、
 風の吹き当たる度にその布が揺れて、外の月
 の光が見えることもあった」

このようなお広前こそが金光教の原点であ
 り、そこから有数の先覚先師が誕生されまし
 た。私が『金光教学』に接していなければ、
 このような史実を終生分らず仕舞であったと、
 我ながら真に迂闊なことでありました。
 「教学」から目が離せない訳が判りました。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光一

横浜市神奈川区青木町六一二十五

〒221-0057 金光教神奈川教会内